

TAMA フレイル予防プロジェクト 今後の展開について

国土館大学 ウェルネス・リサーチセンター 永吉

①これまでの取り組み

2019 年度までの結果分析より、小規模、中規模、大規模の各会場に集まる参加者の特徴を見出すことができた。また、ファーストチェックとセカンドチェックの関係性として、相関が高いことに加えて、ファーストチェックの方がセカンドチェックの結果を反映しやすい特徴を見出すことができた。これらの分析結果より、2020 年度から、時間の短縮と3密防止の観点も含めて、より多くの参加者のフレイルチェックができるよう、小規模会場においてファーストチェックのみで実施してきた。ファーストチェックのみの実施に変更したため、2020 年度は 1002 名と参加者は増加したが、その後コロナの影響に伴い測定会を中止し、オンデマンド型のフレイル動画を作成し、感染予防を徹底し、して継続実施してきた。コロナ過ではあったが、2021 年度は 253 名の参加者であった。コロナ以降は徐々に参加者は増加し現在に至っているが、課題としてリピーターが少ないことや男性の参加者が女性と比べて少ないことが分析結果から明らかとなっている。

②今年度からの取り組み

参加者の増加を第一の目標に、課題となっているリピーターが少ないことや男性の参加者が女性と比べて少ないことへの対応として、一つ目は、小規模会場ではファーストチェックを継続して出来るだけ短時間に測定を終了できるようにすること。二つ目は、大規模・中規模の日程を早期に調整し、広報活動をこれまで以上に積極的に行うこと。三つ目に、大規模・中規模会場においては、参加者の満足度を向上させるためにもセカンドチェックの実施や体験コーナーを充実させることによりリピーターを増やすこと。そのためのボランティアスタッフの確保とした取組をしていくこと。以上を今年度の取組の柱としたい。ボランティアスタッフの確保においては、ボランティアセンターとの連携、国土館大学以外の大学との更なる連携、スタッフ研修会の開催などを予定している。